

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401400		
法人名	株式会社 日進開発		
事業所名	グループホーム「くにみの里」		
所在地	長崎県雲仙市国見町多比良戊1449-416		
自己評価作成日	令和 元 年 9 月 19 日	評価結果市町村受理日	令和2年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和元年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

サービス提供する際は、日々「やさしい声かけ」「おいしい食事」「快適な施設」「健康管理の徹底」利用者様お一人お一人安心して過ごして頂けるよう支援しています。
 今年度は3棟で行える行事を考え(花見・夏祭り・野菜作り)毎年恒例の法人内3事業所で行う敬老会も参加家族が増え、盛り上がりを見せている。地域の取り組みとしては、小学校の運動会参加・小学校卒業生へのプレゼント作り・福祉体験を受け入れるだけではなく、自分達が出来た事を活かし、地域との交流を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは敷地内に同法人グループホームとデイサービスが隣接する自然豊かな場所に立地しており、緊急時及び有事の場合における協力体制を構築している。職員は入居者と一緒にホーム畑での作物の栽培や収穫を行うなど、入居者の好きなことやできることを一緒に行うことで充実した毎日が過ごせるよう支援に取り組んでいる。収穫した野菜は日々の食事に用いられ、作物の成長に対する喜びや収穫による感動を入居者と職員と一緒に分かち合い、生活に対する充実感へと繋げている。ホームでは年間を通じて桜やつつじ、紅葉見物や敬老会での家族参加による外食など、積極的な外出支援を行っている。また、地域の小学校の運動会への参加や卒業式の際の壁飾り制作を通し、入居者のできることを活かしながら地域と交流できるよう支援するほか、敷地内にある同法人デイサービスへの保育園や踊りの会などの訪問の際には見学に向いたり、デイサービスに通う知人の方と話したりするなど地域の方との交流を深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を理解し、理念に基づいたサービス提供を実施している。	職員はリビングや事務所に掲げられた理念に基づき、日々支援に取り組んでいる。ホーム畑での作物の栽培や収穫により入居者の喜びや感動に繋げるなど、入居者一人ひとりが好きなことやできることを一緒に行うことで充実した毎日となるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	小学校の卒業式に壁飾りを入居者みんなで作り、学校へ持っていき、子供たちの笑顔が見られたことをとても喜ばれていた。	職員は入居者との地域小学校の運動会への参加や卒業式の際の壁飾り制作を通し、入居者のできることを活かしながら地域と交流できるよう支援している。敷地内にある同法人デイサービスへの保育園や踊りの会などの訪問の際には見学に出向き、地域の方との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小中高の福祉体験の受け入れを行い、体験を通して認知症を知ってもらう場を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	スクリーンを用い、写真をうつしだし、家族より施設での生活がよくわかったと喜ばれている。毎回、相談や意見を頂き、サービス向上に努めている。	運営推進会議には市職員・自治会長・民生委員・入居者及び家族・職員の参加があり、各ユニットの状況報告や行事などについてスクリーンを用いて報告し、参加者からの意見や要望を介護支援に活かしている。議題については職員間で検討し、会議の事前案内や月次報告をしているものの、参加する家族が固定化している傾向にある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	病院・グループホームの研修に参加し、地域との情報交換を行っている。	ホームは市職員が運営推進会議へ参加した際にホームの状況報告や行事などを知らせるとともに、意見や情報を得ている。また、市福祉課や島原地域広域市町村圏組合へ書類申請方法を尋ねるなどし、協力関係を築いている。12月にはグループホーム連絡協議会主催の新人研修会へ参加する予定としており、職員の研鑽を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて取り組み、声掛けにて身体拘束しない介護に取り組んでいる	ホーム玄関は昼間施錠せず人感センサーと職員見守りにて対応しており、離設(施設を離れる行為)があった場合は職員が見守りながら入居者が納得行くまで散歩に付き添う支援を行っている。ホームでは身体拘束委員会が話し合った内容を運営推進会議の際に議題に挙げて参加者と話し合うとともに、外部研修や社内研修へ参加し職員に意識付けすることで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	推進会議の議題に上げ、ご家族に説明し、職員間でもミーティング等で話し合い、理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修会に参加し、資料はいつでも目を通せる場所に置いてある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には十分な説明を行い、改定時には文書を作成し、丁寧に説明を行って同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議にも参加をお願いし、面会時・電話等で直接意見を聞いて、すばやく対応できるように取り組んでいる。	ホームでは家族の意見や要望について運営推進会議や面会の際に聞くようにしており、それらを介護支援に活かすよう取り組んでいる。また、毎月ホーム便りを家族へ送付し、行事の写真や担当職員からのコメントを添えることで入居者の様子が分かるよう工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に意見や提案をまとめ、管理者会議を開き、施設長が法人の会議の中で報告し、反映につなげている。	職員の意見や要望についてミーティングの際に聞き取り、管理者会議で集約したのち法人での合同会議で提案している。職員から挙げた意見や要望の内、制服作製や職員の腰痛軽減のための電動ベッド購入を予定するなど、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はヒヤリングを行い、実績・勤務状況を把握して、給与を見直して給与に反映されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で毎月研修が行われ、研修案内を常に掲示し、参加の機会が確保されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他者施設と情報交換をして、ケア向上に努めている。雲仙市グループホーム協議会に参加し交流を図り、サービスの質を向上させる取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申し込みの際には必ず施設見学をお願いしている。利用前には本人との面談を行い、困っている事や不安な事などを聞き、安心して利用して下さる様、体制を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に不安に思っている事や今までのサービス利用状況等の聞き取りを行い、一緒に入居者を支えられるよう信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援の提案や相談を必要なサービスに繋げるように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の希望や生活歴を活用し、出来ることを継続し、役割を職員と一緒に行う事で、共同生活者の関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態を月に一度発行の「里だより」にも状況を記載し、ご家族様に現在の状態がわかるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の馴染み散髪屋やデイサービスの友人訪問等、入居前の生活状況を継続できるように支援している。	職員は入居者知人との年賀状や手紙のやり取りを通し、馴染みの関係が途切れないよう支援している。また、遠方に住む家族の希望にて1か月間程外泊できるよう薬の用意や介助方法のアドバイスを行うなど、家族との繋がりが保てるよう支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく過ごす時間や気の合う者同士が自由に過ごせる時間を作り、利用者が孤立しないように職員が声を掛けたりして、交流できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所された方も見舞いに行ったり、退所後の受け入れ先等を相談している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人より日々の関わりの中で情報収集したり、家族からも情報収集し思いや意向の把握に努めている。	職員は日々の関わりの中で入居者の思いや意向の把握に努めており、難聴の方については筆談にて、意思表示が困難な方については表情や状態から汲み取るよう努めている。また、本が読みたいとの希望がある方については市の移動図書館がホームに来た際に借りることができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から些細な事でも聞き取り、日々情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることに着目し、日々の生活リズムや心身状態を全員が周知できるよう、個人記録に記入し、1日の生活が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族、医師、看護師と関わり、思いや意見を取り入れ、計画に反映させ作成している。	ホームでは入居の際に本人や家族より生活の希望を聞き取ったアセスメントをもとに担当職員が暫定プランを作成し、サービス担当者会議にて話し合ったのち入居者一人ひとりに応じた介護計画を作成している。介護計画は3か月毎に見直しを行い、入居者に変化があった場合には随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者の状態変化は個別の記録に記載し、全職員が確認できるようにしており、モニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者家族の状況に応じ必要な支援は迅速に対応し、本人、家族に満足して頂けるように努めている。デイサービス利用から入居になった方等、友人と面会を支援するなど、関係が絶えないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの理美容室や商店での買い物に行ったり、施設の買い物に同行してもらう等、生きがいを失わないよう支援を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医院での受診を行い、介護記録・受診ノートを持参し、医師との情報共有をできるようにしている。	ホームでは入居者・家族が希望する医療機関で受診できるよう支援しており、受診の際には職員が同行している。尚、急変時や遠方の病院への受診の際には家族対応で受診してもらうこともある。ホームには月1回歯科医師による往診があり、口腔ケアや義歯の管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回、訪問看護師に状態の報告や相談をしている。特変時にはすぐに連絡し、対応の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医師、看護師と情報交換しながら、早期退院ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携を取っている。安心して納得した終末期が迎えられるように、看取りの研修を受けており、随時意思を確認しながら取り組んでいる。	入居の際、ホームでは看取りの指針について本人・家族へ説明している。重度化した場合には入居者・家族・職員・医師・看護師で話し合いながら支援の方針について共有している。職員は看取りについての社内研修へ参加し、意識付けを図っている。昨年1名の方を看取った際には葬儀などの手配をホームで行うなど、家族の方の精神面に配慮した支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導のもと、救命救急の講習を受け、AEDの使用の研修を行っている。又、夜間緊急時のマニュアル・連絡網を作り居室に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年3回、日中・夜間を想定し、火災・災害時の避難訓練を利用者と共に実施し、他の施設とも協力体制を築いている。	ホームでは年3回の避難訓練を敷地内にある同法人グループホーム・デイサービスと合同で実施し、緊急時の協力体制を構築している。また、各居室の戸に緊急対応マニュアルのフローチャートを掲示することで迅速に対応できるよう工夫している。今年9月には入居者全員参加による災害を想定した炊き出し訓練を実施し、備蓄米や水の試食を行い入居者が実際に食することができるか確認を行った。	現在、従来の消防計画書を見直すとともに、防災についても台風や強風などホームの立地条件に重点を置いた計画を作成中である。備蓄品については一覧表を作成・管理しているが、食料品だけでなく紙コップ・皿、割りばしなどの生活に関する用品をリスト化するなど、有事の際に何が必要なのか考えて準備することが望まれる。また、自動火災通報装置への登録者に関する情報について職員間で共有できていなかったため、対応することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちや言葉を大切に、それに対してあたたかい言葉かけをしている。	職員は社内での接遇研修会に参加し学ぶことで、入居者の持つ誇りやプライバシーを遵守した支援に日々取り組んでいる。管理者は職員による不適切な言葉掛けを見つけた場合、時間を置いてから注意したりミーティングの際に何故不適切であるのか職員間で話し合ったりしながら職員への意識付けを図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が話せる雰囲気を作り、毎日の中で本人の思いや希望の表出や自己決定できるように声掛けをしている。意思表示ができない方は、表情等を読み取り、自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の望みを尊重してお互いに暮らしやすいペースを作れるように話し合いながら生活している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日本人が選んだ洋服を着ている。入居者様の馴染みの床屋に行かれるか、二カ月に一度施設に来る訪問美容にて散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにされているので、入居者が食べたい物を聞いて献立を立てたりしている。畑で野菜を作り、自分達で収穫して食事に取り入れている。	ホーム畑で収穫した旬の野菜を用い、入居者の状態に応じた食事形態や摂取量に合わせた食事を提供している。職員も入居者と一緒に食事を摂っており、家庭的な雰囲気が窺われる。職員は入居者に饅頭やホットケーキなどのおやつづくりや食事の準備・後片付けを手伝ってもらうなど、入居者の有する力を活かしながら支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様が食べやすいように工夫している。食事量・水分チェック表に基づきながら、1人ひとりの状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れ・臭いがないように、毎食後1人ひとりにあった口腔ケアを行っている。歯科にも定期的に口腔内の状態を見てもらいながらケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない入居者にも時間を見計らって誘導し、トイレでの排泄が行えるようにしている。	職員は排泄チェック表をもとに見守りや適宜トイレへ誘導するなど、入居者一人ひとりの状態に合わせてながらトイレで排泄できるよう支援している。排泄を失敗した場合にはトイレや浴室へ誘導し清拭やシャワー浴を行うなど、衛生面に配慮した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動やレクリエーション、体操を行い水分補給を促し、医師に相談しながら薬による排便コントロールを行っている。食事にも多くの野菜を取り入れるようにしている。便秘に関する研修会も行った。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調や気分に合わせて入浴を実施している。 毎日、入浴できる。	ホームでは週3回午前と午後に入浴支援を行っており、入居者の希望に合わせてシャワー浴や湯船にゆっくりと浸かるなど、入浴を楽しめるよう支援している。入浴前には必ずバイタルチェックでの入居者の体調確認や湯温・室温の管理を行い、健康や安全に留意した支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活歴を知る事で就寝時間を把握し、なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。寝具も天気の良い日に天日干しを行い、気持ちよく眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬の処方、効能、副作用の説明をお薬手帳にはさみ、全職員が分かるように徹底している。薬剤師からも説明を受け、薬が変更になった時は受診ノートに書きとめている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農作体験者が入居しておられ、その生活歴や経験を活かし、敷地内に畑を作り、野菜を育て、収穫したり、自分の好きな事が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の小学校の行事や、買い物や外食を行い、家族の協力を得て自宅に帰ったり、本人の希望に沿った支援を行っている。	ホームでは病院受診の帰りなどに入居者からの希望に応じて買い物支援を行うほか、桜やつつじ、紅葉見物や敬老会での家族参加による外食など、年間を通じて外出支援を行っている。天気の良い日には朝・夕に庭を散歩したりホーム駐車場にある芝生でお茶会や音楽を催したりするなどし、入居者の気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの買い物に同行したり、受診の帰り道でスーパーに寄って買い物の支援を行っている。少量のお金を所持し、使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時はいつでもかけられるように支援している。聴力の弱い方の為に変わって通話する事もある。手紙の代読も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居間は全てが視界に入り、落ち着いてくつろげる。季節感のある掲示物を飾り、季節の花や野菜を育てたり、季節をすぐ近くで感じる事ができる。	ホームのリビングダイニングには季節に合わせた装飾が施され、窓からは四季折々の花々を見ることができる。食事を終えると入居者同士や職員と会話したりソファに座って寛ぎながらテレビ鑑賞したりする姿が窺える。職員は入居者に居心地良く過ごしてもらえよう清掃や空調管理を心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で1人ゆったり過ごせたり、入居者が互いに居室を訪問され、自由に行き来が出来る支援を行っている。隣の棟にも自由に遊びに行かれる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住む場所は変わっても本人の好みに合うように好きな様に居室を使い、心地よく過ごせるようにしている。	居室には家具家電や家族の写真、お位牌や観音菩薩像など入居前からの馴染みの物を持ち込むことができ、職員は入居者が居心地良く過ごせる部屋づくりに取り組んでいる。また、居室入り口には入居者に自分の居室であることが分かるよう手づくりの表札を掲げる工夫を行うなど、見当識に配慮した支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方にはブレーキをかけやすいように筒を付けたり、居室が分からなくなった方には居室前の名札を大きくしたり、食卓の椅子の高さを調節し、楽しく生活できるように工夫している。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を職員全員が周知し、その理念に基づいたサービス提供が出来ているか、共に考え実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所自体がこの地域に存続している事で、地域の拠り所となり、安心に繋がっている。近くの小学校・幼稚園・保育園からの慰問にて、交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の相談所として窓口を開いている。また、小学生・中学生・新たに高校生の福祉体験学習を受け入れを行い、認知症について、知る機会を持つ場を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員・自治会長・民生委員の方々とご家族に出席していただき、時候に応じて介護・健康・サービスに関する勉強会を共に行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、事業所の現状を積極的に伝え、運営に関する事の質問や意見交換を行い、協力体制の構築を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの在り方を考えて、正しい理解を深めるよう、事業所全体で取り組んでいる。それにより、入居者の状態に応じて、やさしい声かけを行ったり、職員の意識の向上に繋げている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から職員間でもよく話し合い虐待防止に関心・理解浸透に努めている。温かみのある言葉掛けを行い、入居者に安心感を抱いてもらえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の研修会に参加し、学んだ事を他の職員に伝えて、活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約についてご家族に十分な理解が得られるよう解りやすく説明し安心して利用していただけるようにしている。改定時にも文書を作成し配布と説明を行い、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者やご家族が何でも気軽に話していただけるような信頼関係を築くように努めている。玄関には意見箱を設置しており、意見・要望には素早く対応し、ケアの向上に取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務にて職員の意見や提案を報告している。挙げた意見等は施設長が法人の会議で提案することで反映の機会を得るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に応じた勤務体制を確保してもらえる事で、安心して子育てや介護が出来る環境ができています。相談事もじっくり耳を傾けてくれる機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を常に掲示し、積極的に職員に研修参加を勧めている。また、資格取得の為の協力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の勉強会や病院等で行われている研修に参加することで同業者と交流を図る機会を多く設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が持つておられる不安や要望に耳を傾け、安心して利用できるという気持ちになっていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との施設見学と面談を行い、これまでのお困り事・不安な事・要望の聞き取りを行い、共に入居者を支えられる信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者やご家族と交わり、思いやり意見を取り入れて計画に反映させて作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の意見や尊厳を尊重しながら職員が暮らしを共にする心構えで接し、入居者自身も家事などに参加しそれに職員が支援できる環境を作るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態を面会時や電話にて報告、相談し、月に一度発行の里だよりに様子を掲載し、ご家族に今どのような状態か分かるようにしている。面会や病院受診に同行していただけるよう、声かけを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の馴染みの店や理容室などへ出かけたたり、自治会やお寺様とも関わりを継続されている。施設でもご自宅の隣近所の方の面会や電話での引継ぎがあり、喜ばれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングが憩いの場となり、居室ですと過ごすことなく、皆様と楽しく過ごす時間を共有したり、気の合う方同士で話し合える場面作りを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退所された方を見舞いにいたり、することで退院後の受け入れ等の相談や他サービスの検討をしたりするなど支援できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との交わりの中で出てきた思いを把握して個々のペースに合わせて、生活のリズムをうみだしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者やご家族から些細な事でも傾聴し、利用されていた事業所に情報提供を依頼する等本人の状況を知ることが出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることに着目し、日々の記録によって生活リズムや心身状態を全員が周知し把握している。作業等職員と共にして頂き有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者や御家族の思いや必要に応じて医師や看護師の意見を取り入れ、本人の現状に合う計画になるように反映させ作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	提供するサービスについて、個別に記録する中に実践状況が分かるよう記載している。プランに沿って入居者が生活出来ているか全職員が把握、共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者とご家族の状況に応じ必要な支援は迅速に対応し、本人ご家族満足して頂けるように努めている。外出されご近所巡りをされた方や、毎日している体操を教えて欲しい等の要望に応えた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけだった商店や美容室など親しみの店に行ったり、施設の買い物に同行してもらうなど、生きがいを失わない支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医院での医療を受けられるようご家族と協力し通院介助を行っている。受診時は受診ノート、生活記録を持参し、医師と職員が情報を共有できるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急な体調の変化にも迅速に対応して、看護師に相談し、主治医の指示を仰ぐようにしている。週一回の訪問にて状態報告し、対応を検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院経過報告書を作成し医療機関やご家族とのやりとりを記載し、早期退院に繋がるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の急変時には主治医との連携を取りながら、訪問看護の急性医療の制度を活用し、点滴投与の看護を行った。社内研修で看取りについての勉強会を行い、安心して納得した終末期を迎えられるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導を受けながら全社員を対象に年に1回救急救命講習の研修を行っている。AEDの使い方について指導を受けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害に備え日中と夜間を想定し利用者と共に避難訓練を行っている。非常食と非常持ち出し品を備蓄品一覧表で定期的に管理して、全職員が周知できるようにした。推進会議等で、ご家族・入居者に災害時の取り組みについて説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のお気持ちを尊重し、その方に合わせた声掛けで出来る事に着目して、心を込めたケアであるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者がゆっくり話せる雰囲気を作り、感じた事や希望などを言葉や表現できる環境を作るよう努めている。物事を決める時も、本人が決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の望みを会話の中から汲み取り、希望に添えるように支援し、どのような過ごし方をその都度話し合いながら、生活を共にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、蒸しタオルを渡して、手鏡と櫛で整容出来るようにしている。身だしなみへの関心が高い方が多く、髪飾りやクリームでおしゃれを楽しんだり、気分が良くなるよう、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜の活用法を尋ねたり、一緒に下ごしらえをしてもらいながら、食べたい物を聴いて献立に取り入れている。毎食のテーブル拭きから、食後のお盆拭きまで、楽しく食事を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食べやすい形態の工夫をして提供している。また食事量・水分チェック表を活用し一人一人の状態を把握し、一日を通じて確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の手入れや歯磨きは、ご自身で出来るご自分で頂き、出来ない部分を介助にて衛生を保つようにしている。定期的に歯科の往診を受け、口腔内の状態がよくなるよう、体制が整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄に合わせたオムツ・パットの使用で、寄り添う時も自分で出来る所はしてもらうよう、配慮している。生活リズムに合った言葉かけを行い、排泄への誘導を行うようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を多く取り入れて、腸内が活性するように、朝のお茶の時間に牛乳を提供している。歩行訓練や体操で積極的に身体が動かせるよう、働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、午前と午後に入浴を行っている。入前に必ず、体調確認と本人の意思を聴いて、入浴を実施している。その方に合った適温を把握して、会話を楽しみながらくつろげるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜は一人ひとりの望む時刻に就寝して頂いている。眠れない時は話し相手をし、安心して眠りに就けるようにしている。ベッドの周りには時計やタオルなどの品を置き、落ち着いて休める寝床にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を保管し、全職員が解かるようにしている。誤薬がないように2人以上の職員が何度も確認し、その方に合った服薬の仕方も工夫している。薬の処方変更になった時は様子観察を行い、主治医と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた地域の行事に外出したり、毎日笑顔になれる楽しみをみつけている。経験を生かした手作業や農作業を通して、出来る事はまだまだ沢山あると実感してもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出て風を肌で感じてもらい、花見をしたり、お茶会をする機会を多く行っている。ご家族と外食や親戚の家を訪ねたり、交流をもたれている。外泊等もご家族と相談し、希望に添えるように話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人とご家族との話し合いのもと、少額の金銭管理をして頂き、ご自身で買い物をしていたいでいる。出来ない方は事務所で管理し、買い物を代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい時にはいつでも掛けられるよう支援をし、聴力の弱い方の為に、代わって通話をすることもある。手紙はすぐに書けるように切手やはがきを用意してもらい、ポストに投函する支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居間は一体的な造りで全てが視界に入り落ち着いてくつろげる空間にしている。入居者の折り紙で作った飾り物が色鮮やかで、心を和ませて、温かみのあるホッと出来る場所になっている。メダカを飼育していて、皆様成長を楽しみにされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは自分の好きな所に座られたり、それぞれ自由に会話をされ、仲睦まじい関係をもたれている。居室で過ごしたい時には、いつでも自室に戻られたり出来る。入居者同士が互いに行き来し、談笑しておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用していたものを持ち込まれたり、各々の家具の配置はご家族や本人が自由にされている。好きな物に囲まれてぬくもりのある居室を造れるように、配慮をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具を置く時も方向を以前と同じ配置にして、室内で安全に動いてもらえるように工夫している。実際に一緒に動いてもらい、感覚や距離を掴んで頂き、解りやすく表示するようにもしている。		